

(2) 病原体定点対象感染症

ア 月別ウイルス分離・検出状況 (P36 表 14 参照)

(ア) アデノウイルスは、11 月をピークに検出された。54 型が最も多く検出された。

(P37 図 7 参照)。

(イ) 2017/18 シーズン (2017 年 9 月 4 日～2018 年 9 月 2 日) のインフルエンザウイルスは、A(H1N1)2009 型が主に流行が始まり、当初多く検出された。その後、例年になく B 型山形系統が年末から流行し、春にかけて多く検出された。また、2018 年初めには A(H1N1)2009 型が減少し、AH3 型が増加した。さらに、シーズン終りに A(H1N1)2009 型が検出された (P37 図 8-a 参照)。

2017/18 シーズンに AH3 型は 21 件、A(H1N1)2009 型は 13 件、B 型は 25 件検出され、B 型は山形系統が 24 件、ビクトリア系統が 1 件であった (P38 図 9 参照)。検出された A(H1N1)2009 型のうち、9 件についてタミフル耐性遺伝子を調べたところ、4 件からはタミフル耐性遺伝子は検出されず、残りは判定不能であった。

2018/19 シーズン (2018 年 9 月 3 日～2019 年 9 月 1 日) のインフルエンザウイルスは、AH3 型と A(H1N1)2009 型が主に流行した (P38 図 8-b 参照)。

2018/19 シーズンに AH3 型は 20 件、A(H1N1)2009 型は 10 件、B 型は 1 件検出された。B 型は山形系統が 1 件のみで、ビクトリア系統は検出されなかった (P38 図 9 参照)。検出された A(H1N1)2009 型のうち、10 件についてタミフル耐性遺伝子を調べたところ、4 件からはタミフル耐性遺伝子は検出されず、残りは判定不能であった。

(ウ) エンテロウイルスについては、7 月に最も多く分離・検出された。型が多かったのはエコーウイルス 18 型が 6 件、CVA4 が 4 件であった (P39 図 10 参照)。

(エ) RS ウイルスは、2 月から 5 月にかけて B 亜型が 3 件、9 月に A 亜型が 1 件検出された。

(オ) A 群ロタウイルスは、6 月、7 月、9 月を除いて検出された (P36 表 14 参照)。

(カ) ノロウイルスは 4 月と 9 月から 11 月を除いて検出された (P39 図 11 参照)。

遺伝子群はすべて GII であった。

(キ) サポウイルスは 2 月、4 月、9 月から 11 月に検出された (P39 図 11 参照)。

(ク) ヘルペスウイルスについては、ヘルペスウイルス 3 が 1 月と 8 月、ヘルペスウイルス 5 が 9 月に検出された。

表14 採取月別ウイルス分離・検出状況(平成30年1月～12月)

検出病原体	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
アデノ 1型	1				1			1				
アデノ 2型	1	1	1	1					1			
アデノ 3型												
アデノ 4型												
アデノ 5型												
アデノ 6型												
アデノ 7型			1									
アデノ 8型												
アデノ 40/41型					1							2
アデノ 54型								1	2	2	6	3
アデノ 56型				1			1	1				
アデノ 64型												
アデノ 型別不能					1	1			1			
インフルエンザ AH3	4	5	3	2	4							2
インフルエンザ A(H1N1)2009	5	1					3	1				
インフルエンザ B Victoria系統												
インフルエンザ B Yamagata系統	8	8	5	1								
コクサッキー A2型						1				1		
コクサッキー A4型						1	2			1		
コクサッキー A5型												
コクサッキー A6型												
コクサッキー A10型												
コクサッキー A16型												
コクサッキー B3型												
コクサッキー B5型												
エコー 3型												
エコー 5型												
エコー 11型									1			
エコー 18型						1	5					
エコー 25型												
エンテロ A71型										1		
ライノ												
エンテロ 型別不能						1	2					
ムンプス												
RS A亜型									1			
RS B亜型		1	1		1							
A群ロタ	2	4	2	3	1			1		1	1	2
アストロ												
ノロ GⅡ	1	3	1		5	4	6	1				2
サポ		1		3					1	1	1	
ヘルペス 1,2型												
ヘルペス 3	2							1				
ヘルペス 5									1			
ヘルペス 6												
ヘルペス 7												

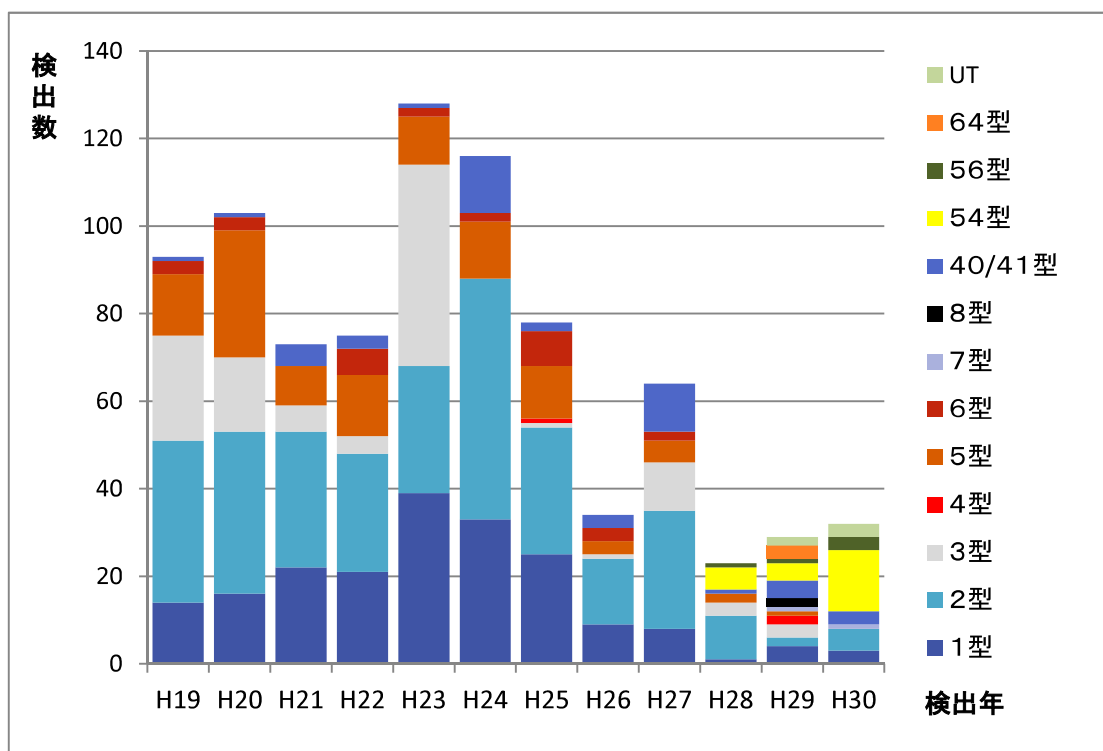


図7 年別型別 アデノウイルス検出状況

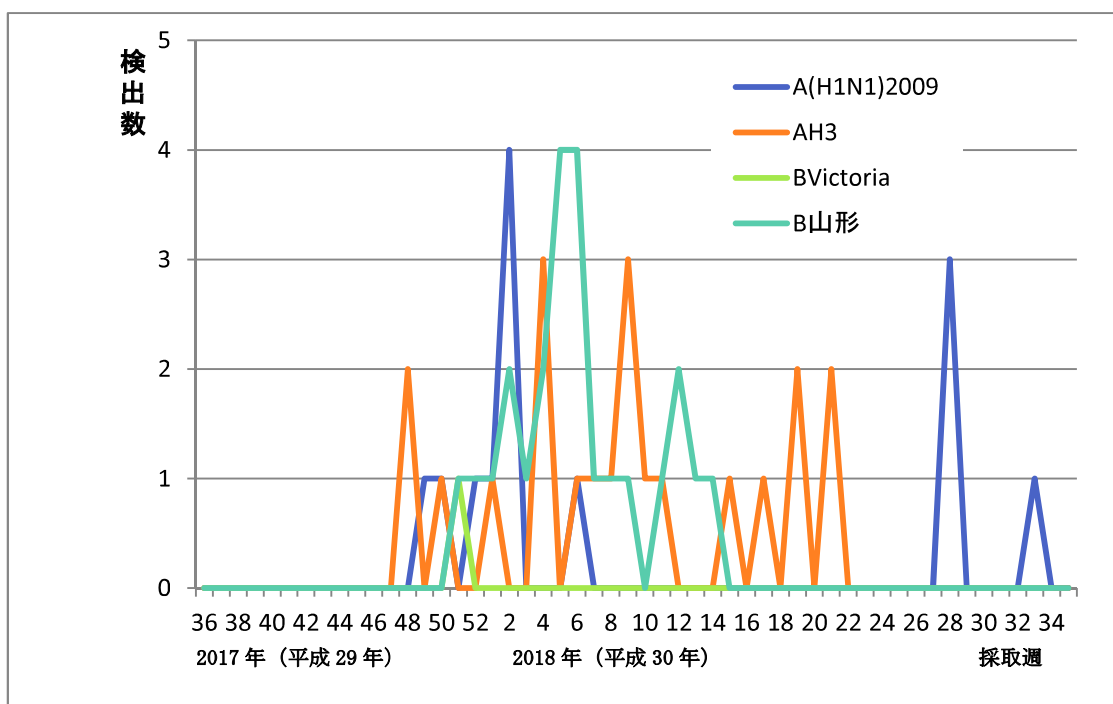


図8-a 2017/18 シーズン インフルエンザウイルス検出状況

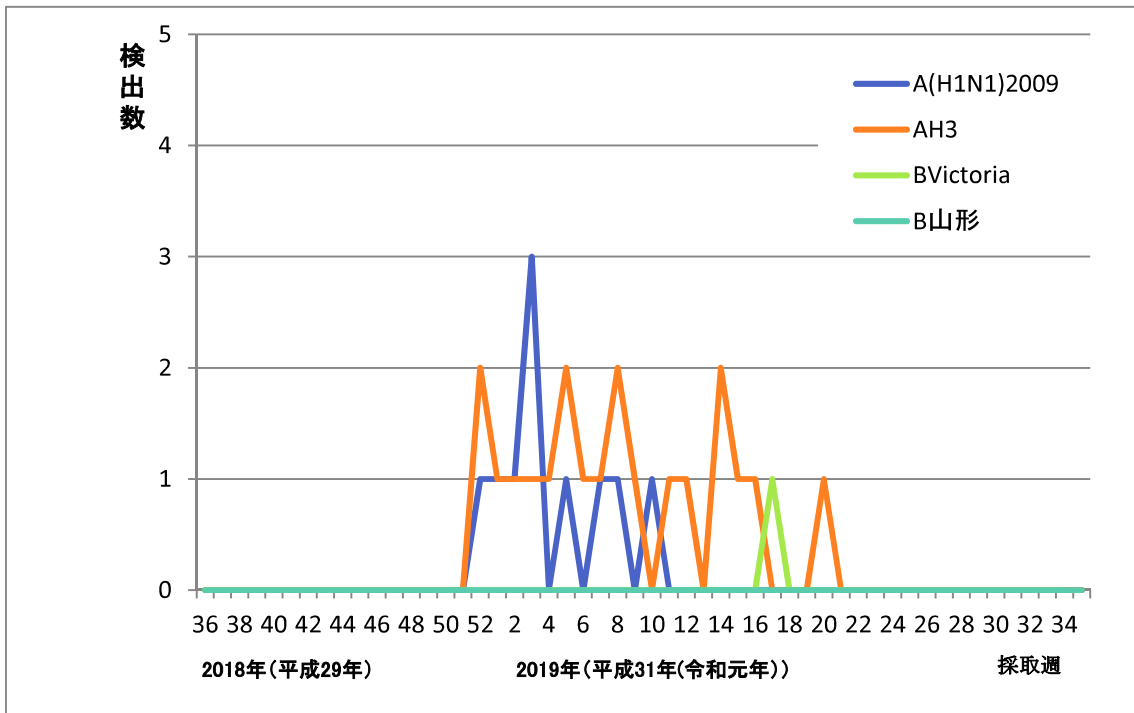


図 8-b 2018/19 シーズン インフルエンザウイルス検出状況

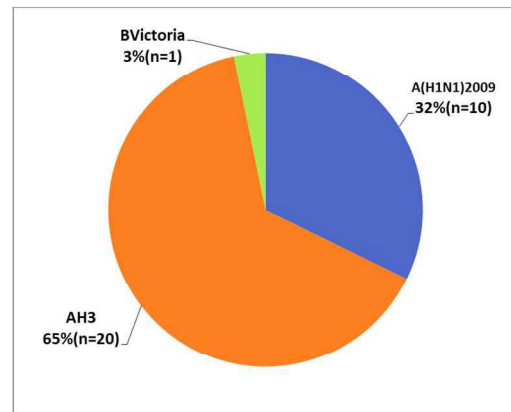
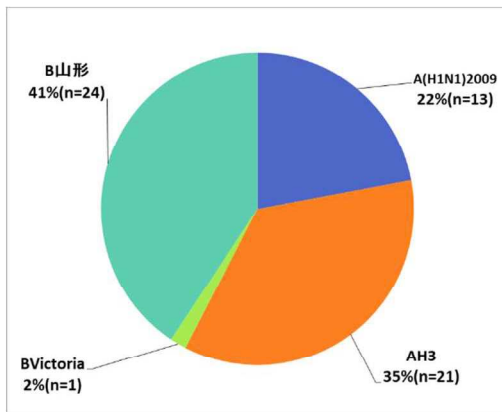


図 9 2017/18、2018/19 シーズンにおけるインフルエンザウイルス型別検出割合

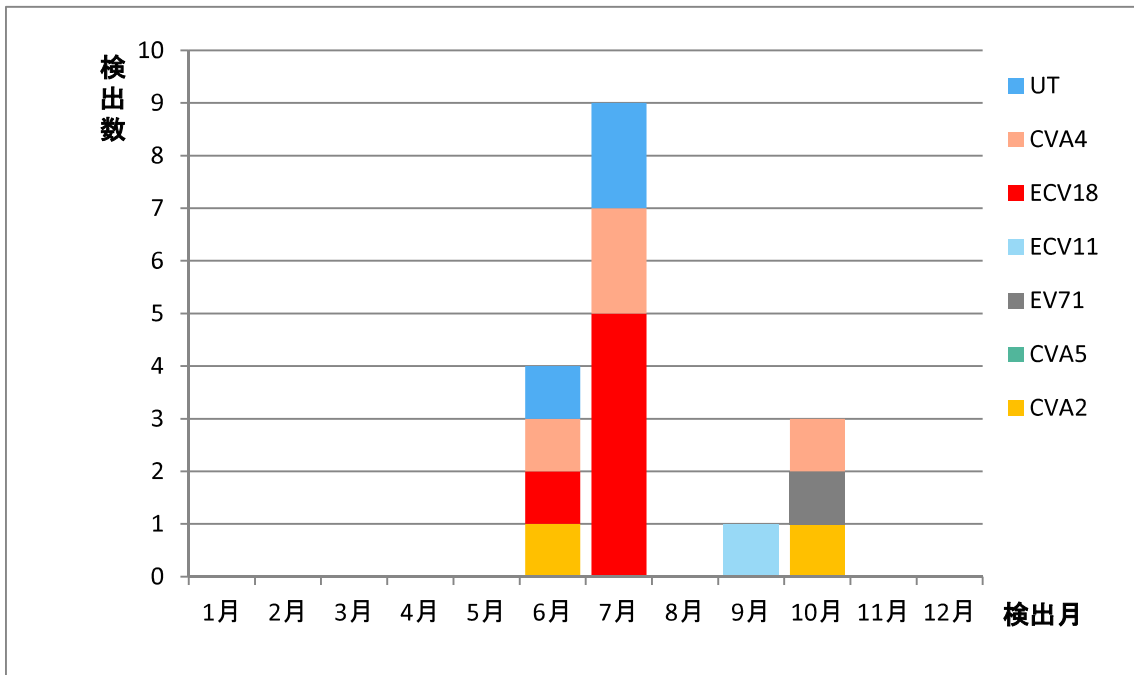


図 10 平成 30 年 月別 エンテロウイルス検出状況
 ※CV：コクサッキーウイルス UT：型別不能

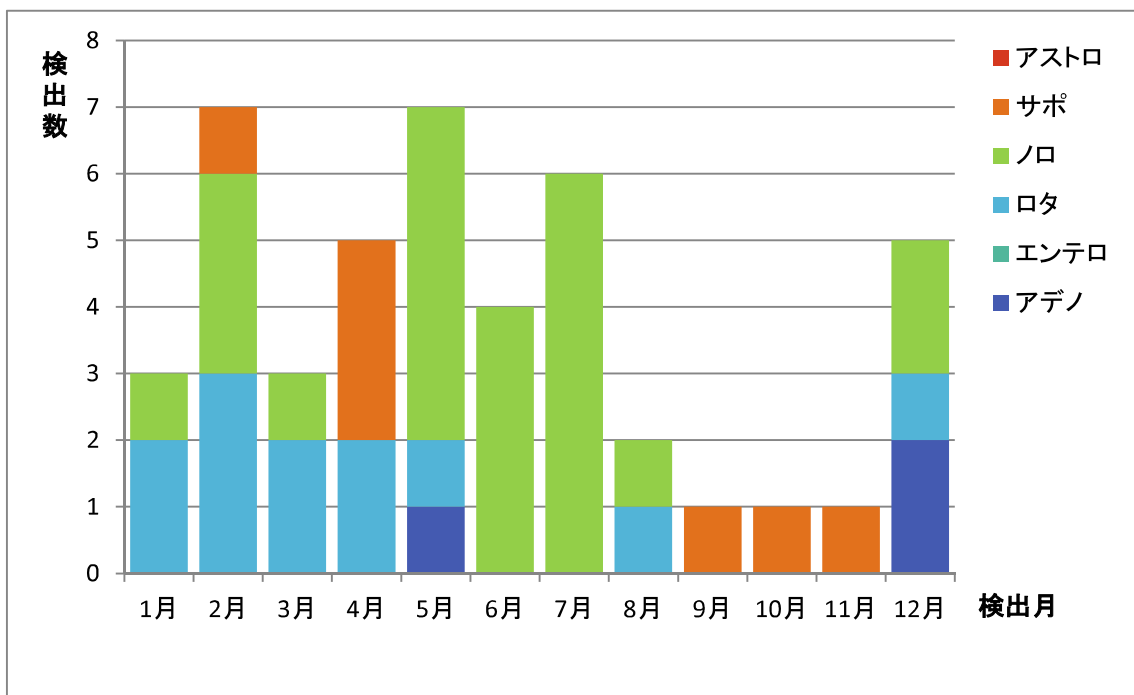


図 11 平成 30 年 月別 便検体由来ウイルス検出状況

イ 月別細菌分離・検出状況

A 群溶血性レンサ球菌が 3 件分離された。血清型は T1 型が 1 件、型別不能が 2 件であった。1 月、3 月、9 月に分離された（表 15 参照）。

表 15 月別 A 群レンサ球菌分離状況(平成 30 年 1 月～12 月)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
A群レンサ球菌型別不能			1						1				2
A群レンサ球菌T1型	1												1

(3) 全数把握対象感染症

ア ウイルス検査の概要

(ア) SFTSウイルス

各保健所の積極的疫学調査により 3 名の検査を実施したが、いずれの患者からも SFTSウイルスは検出されなかった。

(イ) エンテロウイルス

急性脳炎に係る保健所の積極的疫学調査により 1 名の検査を実施した。(検査項目：エンテロウイルス、パレコウイルス、ヘルペスウイルス) その結果、コクサッキーウイルス A4 型が検出された。

(ウ) 麻しんウイルス

各保健所の積極的疫学調査により 11 名の検査を実施したが、いずれの患者からも麻しんウイルスは検出されなかった。

(エ) 風しんウイルス

各保健所の積極的疫学調査により 8 名の検査を実施した。その内、1 名から風しんウイルスが検出された。その遺伝子型は 1E であった。

イ リケッチア検査の概要

各保健所の積極的疫学調査により、10 件の日本紅斑熱の検査を実施し、2 件の日本紅斑熱リケッチア陽性を確認した。詳細は以下のとおりである(表 16 参照)。内、各保健所の積極的疫学調査により 1 件のツツガムシ検査も国立感染症研究所へ委託したが、抗体検査は陰性であった。

表 16 日本紅斑熱患者概要

番号	発生年月	性別	年齢	発生地	症状			
					発熱	発疹	刺し口	肝機能異常
1	2018年7月	男	80歳代	岩美郡	○	○	○	○
2	2018年10月	女	60歳代	県外	○	○	○	